

営業の成果

- **預金** 預金は、期中450億55百万円増加し、期末残高は3,079億56百万円となりました。このうち定期性預金は、104億90百万円増加し、期末残高は1,012億69百万円となりました。
- **貸出金** 貸出金は、期中19億25百万円増加し、期末残高は229億58百万円となりました。これらはすべて個人向け貸出金であります。
- **有価証券** 有価証券は、期中459億82百万円増加し、期末残高は2,782億56百万円となりました。このうち国債は1,540億95百万円であります。
- **総資産** 総資産は、期中272億64百万円増加し、期末残高は3,530億76百万円となりました。
- **内国為替取扱高** 内国為替取扱高は、前年度比1兆3,966億44百万円増加し、5兆4,539億29百万円となりました。
- **損益の状況** 収益面では、ローン残高増加により貸出金利息が増加した他、運用残高の増加により有価証券利息・配当金が増加し、資金収益が増加しました。決済件数の増加や外国為替保証金取引などの新サービスへの取組みにより、役務取引等収益は大幅に増加しました。一方で、国債等債券売却益等の減少により、その他業務収益、その他経常収益が大幅に減少しました。これらにより経常収益は、前年度比9億82百万円減少し、153億38百万円となりました。
費用面では、日本銀行による政策金利の引上げに伴い預金金利を引き上げたため、資金調達費用が増加しました。新サービス開始にともなうシステム投資やワンタイムパスワードの導入に伴う一時費用等により、営業経費が増加しました。一方で、国債等債券売却損等の減少により、その他業務費用、その他経常費用は大幅に減少しました。これらにより、経常費用は、前年度比19億24百万円減少し、150億43百万円となりました。このほか固定資産処分損35百万円を特別損失に計上しました。
以上の結果、経常利益は2億94百万円、当期純利益は2億42百万円となりました。